

2021 不登校セミナー（第3回）

15歳からの選択肢「学ぶ・働く・休む」～子どもの未来を応援する～

今回は「15歳からの選択肢」～「学ぶ・働く・休む」～というテーマで開催されました。コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言発出の影響で1ヶ月延期されての開催になりました。

「学ぶ」の選択肢では、全日制、定時制、単位制、通信制などの高等学校、高等専修学校、高卒認定試験さらに放送大学、その他にフリースクールやフリースペース、サポート校など様々な学びの場が用意されていることが、具体的な事例なども引用されて紹介され参考になりました。

「進路とは未来に向かって進んでいく道、親や教師から振り分けられ、与えられるものではなく、自ら選び取るもの（村上龍氏の「13歳の進路」から）」というメッセージには思わずハッとさせられました。子どもに自分の思い通りのルールを敷いていなかったか。先回りしていなかったか。そのような気づきを私に与えてくれた言葉でした。

「働く」選択肢では、講師より不登校の後、中学卒業後に就職されたご自身の娘さんの事例なども紹介されました。娘さんは中学卒業後にアルバイトでの社会経験をしていくなかで学ぶことの大切さに気づき、18歳から働きながら単位制高校で学んだそうです。

「今は非正規雇用が大半を占め、これからは学歴社会よりも実力社会の時代となってくる。早く働き始めて自分の実力をつけ、資格を得るなど、専門性を高めることが大切」という講師のお話にも、このような今の時代をしっかりと見据えたうえで「働く」ということについてどう捉えていけばよいのか、考え直す良い機会となりました。

「休む」の選択肢では、「不登校の子どもさんにはエネルギーが落ちている子もおり、まずはゆっくり休むことがエネルギーを貯めることにつながる。そして、少しずつたまってきたらまずは好きなことをやってみる。そこから世界が広がっていく。そう考えていくことで「休む」ことも人生の「学び」そのものとなる。」と話されました。私たち親は、時に子どもには「休む」という選択肢があることを見失うこともあると思います。子どもが「休む」を必要としているのなら、まず安心してゆっくりできる居場所を作り、あたたかく見守ってあげることが親の役目であるのだと思いました。

講演の最後は「社会の中でみんな（自分を含め）がよくなるためには自分に何ができるのかを意識することが大切であり、そのことをすぐに子どもに向ける前にまず親が自分に問うてみる。そうすることが子どものペースやタイミングにあった見守り方、子どもが自ら選択していくことを見守り応援することにつながっていく。」という言葉で締めくくられました。

15歳からの「学ぶ・働く・休む」という選択肢は決して不登校の子どもだけのテーマではなく、大人にも共通するテーマであると思います。今回学んだことを糧にし、より豊かな人生に結び付けていこうと思いました。また会場に来られた参加者の方々も終始真剣な表情で聴いておられました。このセミナーを通して、皆さんの心の中に子どもさんの明るい未来を思い描くきっかけとなって頂ければと思います。